



# 佐

野駅にほど近いアトリエで、絵画教室とアートギャラリーを開いているアドリアアナさん。小学生から大人まで幅広い年代の数十名の生徒が学び、中にはお孫さんの勧めで塗り絵クラスに通う90代の方もいます。

アドリアアナさんがアートと出会うきっかけになったのは、生まれ育ったブラジルで7歳の時に祖父からもらった36色の色鉛筆。「おじいちゃんに絵が上手で、二人で一日中いろいろな絵を描いて楽しんでいました。お父さんも油絵教室に通わせてくれたり、彫刻の道具をそろえてくれたり、興味を持ったことは何でもさせてもらえて、美術系の大学に進学しました」とアーティストになるべくしてなったともいえる環境で子ども時代を過ごしたそうです。

大学を卒業後、日本人の母を持つアドリアアナさんは、自身のルーツでもある日本に移住。東京でイラストレーターなどを経験し、佐野市で始めた絵画教室は創業から

## アートを通じて人を呼べる街に

30年を超えました。「私ができる技法は、生徒たちにも全部やらせてあげたい。たくさん道具と触れることが、将来何かの役に立つ時が来るから」

アトリエにはアドリアアナさんの作品を展示するほか、年に数回はアーティストの作品展を開催しています。金継ぎやとんぼ玉、ひょうたんランプなどのワークショップイベントには、1日で100人以上の参加者があり、大盛況でした。

「佐野にはアーティストが大勢いるのに、作品を発表する場所があまりなく、市外での活動になってしまおう。だから逆に、外からアーティストを呼べる街にしていきたいなと思っています」と展望を語ります。

今年是个展に向けて自身の作品作りにも力を入れていくとのことですが、まずは絵画教室の作品展が3月末に開催されます。みなさんもこの春はぜひアトリエに足を運び、アートに触れてみませんか。

(市民記者 小林春美)

### キラリ話題の人

## 菊池 アドリアアナさん

- ・アーティスト
- ・アドアトリエ絵画教室
- ・アートスケイプギャラリー経営



## ようこそ 市長室からこんにちは！

今年度も残すところあと一カ月となりました。今月は「男女共同参画社会」に向けた取り組みについてお話しさせていただきます。

昨年、地方から都市部へ若年層、特に女性の人口流出が進み、本市においてもその解消に向けてさまざまな施策に取り組んでおります。その一環として、本市では誰もが自分らしく輝ける「男女共同参画社会の実現」を推進しており、性別にかかわらずそれぞれが個性と能力を発揮できる社会を構築することで、「若者・女性にも選ばれるまち」を目指しております。

私も市長として「仕事と家庭の両立を目指す職場の環境づくり！」を行動宣言として掲げ、令和4年度から「輝く女性の活躍を加速するリーダーの会」に参加しております。去る1月15日には第13回リーダーミーティングに出席し、全国の企業トップの方々と、女性活躍の推進や課題について直接意見を交わし、地

方が今取り組むべき改革の必要性を痛感しております。

そのような中、本市は、国（内閣官房）から「若者・女性にも選ばれる地方」に向けた地域の働き方・職場改革などに取り組む自治体として認定を受けました。この国のサポートを追い風に、いよいよ今月地元企業を巻き込んだ職場改革の「キックオフミーティング」を開催いたします。令和8年度から本格的に進めてまいります。外部の多様な知見を取り入れ、市全体で「働きがいと働きやすさ」を追求することで、次世代を担う若者や女性から「住みたい、働きたい」と選ばれる佐野市を目指してまいります。

春の訪れとともに、本市も新たな一歩を踏み出します。市民の皆さま、そして企業の皆さまと共に次世代に誇れる魅力あるまちづくりを進めてまいりますので、皆さまのご理解とご協力をお願いいたします。



佐野市長  
金子 裕

水彩画の魅力に触れる  
日本水彩画会安足支部展



1月16日(金)から18日(日)まで、日本水彩画会第129回安足支部展が、葛生あくとプラザ小ホールで開催されました。

高齢化や会員減少といった課題を抱えながらも、会場には450人もの来場者が訪れ、水彩画ならではの優しい色彩に引き込まれながら、ゆっくりと作品を鑑賞する様子が見られました。

作品の前では「心が動かされた」「来て良かった」といった声も聞かれ、会場は終始、温かな雰囲気にも包まれていました。期間中は市長や教育長、文化協会会長など多くの来賓も来場し、地域に根ざした美術展として注目を集めました。

また、近隣支部からの来訪を通じて作家同士の交流も広がりました。さらに、展示に先立って本部理事による批評指導が行われ、学びの機会を得るとともに、今後の制作意欲につながる機会となったようです。(市民記者 関口麻里)

災害への意識を高めるために  
佐野市防災講演会を開催

1月31日(土)、葛生あくとプラザにおいて、佐野市防災講演会が開催されました。この講演会は災害への意識を高め、防災知識やスキルを広く共有し、地域や個人が災害に対して適切に備えることを目的に行われました。第1部では真岡市危機管理課、気象防災アドバイザーの内田秀治さんを講師にお招きし、「気象・防災情報の見方と使い方」と題して基調講演を行いました。第2部では地域防災従事者活動報告として計4団体が日頃の活動報告を行いました。

また、講演会の実施に合わせ、葛生あくとプラザ正面玄関前ではトイレトレーラーのお披露目を行いました。トイレトレーラーは、避難生活の環境を改善する取り組みの一環として、快適かつ衛生的なトイレ環境の提供を目指し導入したもので、購入費用は国の補助金やクラウドファンディングなどによる皆さまからのご寄付を充当させていただきます。



タスキをつなぎ191チームが激走  
第76回大澤駅伝競走大会



2月1日(日)、清酒開華スタジアム周辺において、第76回を迎えた大澤駅伝競走大会が開催されました。この駅伝大会は、3000メートル障害で日本記録を樹立し、太平洋戦争で戦死した大澤龍雄選手(佐野市牧町出身)を追悼する行事として、昭和26年に始まりました。県内はもとより県外からも多くの選手が参加する、歴史ある大会です。

今大会は、昨年を上回る191チームが参加しました。

一般男子(42.195キロメートル)、高校男子(42.195キロメートル)、一般男子(21.0975キロメートル)、一般・高校女子(21.0975キロメートル)、中学男子(18.00キロメートル)、中学女子(11.00キロメートル)の計6部門で競技が行われ、各チームはタスキをつなぎ、チーム一丸となってゴールを目指しました。

一般・高校女子の部には、全国高等学校駅伝競走大会で2連覇を果たしている長野東高等学校が出場し、同校のBチームが1位、Aチームが2位となりました。

沿道からの声援を受け、選手たちは力走を見せ、各部門で熱戦が繰り広げられました。

